

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校

1. 支援教育の専門性や指導技術の向上をめざすことで、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校
2. 児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校
3. 児童・生徒が安全安心に通い、楽しく過ごせる学校

## 2 中期的目標

## 1 支援教育における専門性及び指導技術の向上

- (1) シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じ、小・中・高3学部を見通した教育課程の改善を行う
- (2) 教材、教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上及び質の平準化を図る。
- (3) ICT機器の活用をさらに高める。特にプロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを使った新しい授業スタイルを構築する。
- (4) リーディングスタッフやコーディネーター等による校内支援や新たな研修等により、経験の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。

## 2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現

- (1) キャリア教育のさらなる推進。特に小・中学部における教育の意識改革や所属教員が高等部卒業後の進路環境を知ることによる、教育課程への効果的なフィードバックを図る。
- (2) 児童生徒の居住地にある学校との交流及び共同学習（居住地校交流）や学校間交流をさらに進める。
- (3) ボッチャをはじめ、パラスポーツを授業等に取り入れたり、地域へのかかわりを深める活動を推進したりすることで、ボランティアや余暇活動、健康維持につながる取組みを推進する。

## 3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り

- (1) 中河内支援教育研究会での役割分担や活動を活性化させ、地域の支援教育力の向上に寄与する。
- (2) ヒヤリハットの共有、緊急対応体制のさらなる定着を図り、教員間の情報の共有と連携のもと、個々の教職員が常に児童生徒の安全・安心をしっかりと守る体制を構築する。
- (3) 校務分掌や業務分担の見直し等で、業務の効率化を図り、児童生徒への直接的なかかわりの時間を増やす。
- (4) 教職員が健康にそれぞれの職務を遂行し、児童生徒・教職員ともに快適な職場の環境を構築する。また、会議等の効率化について検討する

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者・生徒向け：10月下旬実施、教職員向け：11月上旬実施】</p> <p>○今年度の自己診断アンケートについて、保護者・生徒（高等部）の提出率が昨年度と比較し、保護者は7%、生徒は8%下降した（教職員は99%）。次年度も引き続き協力を呼び掛けていきたい。</p> <p>【生徒向け自己診断の結果・分析】</p> <p>○昨年より5%以上数値が上がったのは、1番『学校へ行くのが楽しいですか。』、2番『授業はわかりやすいですか。』、3番『学校では友だちの大切さや社会のルールについて学ぶことができますか。』、5番『先生はこままっているとき、たすけてくれますか。』、8番『校外学習、宿泊学習、修学旅行は楽しいですか。』の5項目で、5番については約30%の上昇が見られた。日頃の教員の気づきも含め、丁寧な支援を心がけている成果と考えられる。</p> <p>【保護者向け自己診断の結果・分析】</p> <p>○昨年と比較し、肯定的意見の数値が上昇した項目が多く見られた。その中でも、28番『企業・施設・作業所等の情報を提供している。』29番『企業実習・作業所実習の取組み・支援が適切に行われている。』は、ともに大きな数値の上昇が見られた。9月に実施されたPTA施設・作業所合同説明会や進路に関わる情報発信の成果と考えられる。</p> <p>【教職員向け自己診断の結果・分析】</p> <p>○34～61番までの28項目では、40番『施設・設備』45番『ICT機器の充実』46番『ICT機器の活用』52番『校内清掃』の4項目が7割に達せず、否定的意見が3割を超えた。特にICT関係の数値は大きく下がり、TVモニターやPCの老朽化、コード等の不足、タブレット等が気軽に使えない、ICT機器の活用に関する研修の不足等が考えられ、教員や児童・生徒のICT機器活用のためにも早急な対応が必要である。『施設・設備』『校内清掃』については、高等部の数値が突出して低く、日頃から教員、生徒ともに清掃を行っているが、清掃の成果が見られないプレハブ棟（トイレ含む）の現状が大きく影響していると考えられる。</p>	<p><b>第1回（7月5日）</b></p> <p>&lt;主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員、事務局紹介 ・学校経営計画の確認 ・各学部の状況説明</li> <li>・第1回授業アンケート集計結果 ・学校教育自己診断の趣旨説明など</li> </ul> <p>&lt;主な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*施設作業所合同説明会をPTAとの協力で実現することは大変喜ばしい。</li> <li>*学校経営推進費で獲得した八尾アスレチックフィールドは、体を動かす楽しみが味わえてよい。また、教員からアイデアが出て実現に至ったのが素晴らしい。</li> <li>*小学部や中学部の教員が施設作業所を見学することはとても大事。</li> <li>*障がい者支援セミナーを実施しているので見学に来てほしい。</li> </ul> <p><b>第2回（11月29日）</b></p> <p>&lt;主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業及び施設見学 ・報告・令和2年度使用教科用図書の選定、学校見学会、学校経営推進事業など</li> </ul> <p>&lt;主な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学では、教員が一人ひとりに丁寧に関わっていて、やりがいや達成感を大切にしている印象を受けた。各学部の見学をすることにより意見も出しやすくなる。</li> <li>・八尾アスレチックフィールド（ボルダリングウォールやウッドチップコース）はメンテナンスなど必要だが、安全に効果的に進めてほしい。</li> </ul> <p><b>第3回（3月3日）</b></p> <p>&lt;主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告・令和元年度学校教育自己診断、令和元年度学校経営計画の評価</li> <li>・令和2年度学校経営計画(案)、府教育委員会への提言について(案)</li> </ul> <p>&lt;主な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労を目標にすることも学校として大切だが、適切な進路先だったのか定着率などを知ることも必要。先を見据えた支援が大切。</li> <li>・学校の避難訓練などを通して、自宅で災害が起こった時の対応や避難を考えるきっかけを繋げてほしい。</li> <li>・働き方改革について、仕事を行う上でやり方は色々あるが、「目的が何か？」という丁寧な説明があれば業務改善に繋がっていくと思う。</li> </ul>

## 府立八尾支援学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 支援教育における専門性及び指導技術の向上	<p>(1) シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じ、小・中・高3学部を見通した教育課程の改善を行う</p> <p>(2) 教材、教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上及び質の平準化を図る。</p> <p>(3) ICT 機器の活用をさらに高める。特にプロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを使った新しい授業スタイルを構築する</p> <p>(4) リーディングスタッフやコーディネーター等による校内支援や新たな研修等により、経験の少ない教員の専門性及び指導技術の向上を図る。</p>	<p>(1) 昨年作成した八尾支援のシラバスの雛形を全教科で使用。また、各学部ではなく全校的な教育課程(12年間を見通す)の検討を進める。</p> <p>(2) ア. 優れた授業を映像に残し、研修や授業改善等に活用するため準備を開始する。 イ. 教材、教具を充実し、教材や指導案等が共有しやすいように電子化に取り組んでいく。</p> <p>(3) 昨年度図書室に設置したプロジェクターや書画カメラ等のユニットを授業で活用できるよう活用研修を推進する。</p> <p>(4) ア. リーディングスタッフやコーディネーター等を中心に本校教員に対し指導についての相談会等を定期的実施する。 イ. 外部講師などを活用し、全教職員がさらなる基礎的な指導技術や専門知識を習得する。</p>	<p>(1) ア・シラバスの新様式を、全学部で使用し、シラバスのHP掲載や「学習のまとめ」など統一出来る様式の検討を行う。 イ・全校教育課程検討会を年3回以上実施。</p> <p>(2) ア. アーカイブ化する授業の選定を進め、年度末までに授業の録画を試行実施する。 イ. 教職員向け学校自己診断に「教材、教具の活用について」の項目を新設し、肯定的評価が70%以上。</p> <p>(3) ア. 授業活用のためのデモンストレーション研修を実施する。 イ・教職員向け学校自己診断の「ICT機器の活用」項目の肯定的評価が10%増【H30 75%】</p> <p>(4) ア. 本校教員に対する定期的な相談会を年15回以上実施する。 イ. 夏季休業中に、連続したテーマに沿った研修を計画し実行する。</p>	<p>(1) ア・シラバスは検討の上、学校独自で作成したが、その後、府教育庁より府内支援学校の統一様式が出されたので、その様式で作成(○) イ. 全校教育課程検討会を4回実施(○)</p> <p>(2) ア. すでに十数回の授業をアーカイブ(映像)として記録、活用に向けて検討中(○) イ. 教職員向けの学校自己診断の新設の項目を設置できなかった。次年度の課題である(△)(類似の質問は95%であった)</p> <p>(3) ア. 授業活用のためのデモンストレーション研修を2学期末に実施した(○) イ・教職員向け学校自己診断の「ICT機器の活用」項目の肯定的評価が9%減。背景に機器の不足等がある。(△)</p> <p>(4) ア. 支援相談会を年間で40回以上実施できた。(◎) イ. 夏季休業中に、「自立活動の視点から」をテーマに連続した研修を実施できた。(○)</p>
2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組の充実による自立や社会参加の実現	<p>(1) キャリア教育のさらなる推進。特に小・中学部における教育の意識改革や所属教員が高等部卒業後の進路環境を知ることによる、教育課程への効果的なフィードバックを図る。</p> <p>(2) 児童生徒の居住地にある学校との交流及び共同学習(居住地校交流)や学校間交流をさらに進める。</p> <p>(3) ボッチャをはじめ、パラスポーツを授業等に取り入れたり、地域へのかかわりを深める活動を推進することで、ボランティアや余暇活動、健康維持につながる取組を推進する。</p>	<p>(1) ア. 小・中学部の教員による施設事業所見学を計画的に行い、校内研修についても検討していく。 イ. 小中高連携による一貫した進路指導のために、キャリア教育について全校的なカリキュラムの構築に取り組む。</p> <p>(2) ア. 居住地校交流の啓発や交流が、本校の教育活動とより密接に結びつくよう実践を進める。 イ. 児童・生徒会による交流活動の活性化と充実を図る</p> <p>(3) ア. 児童・生徒会主導による地域に向けた挨拶や啓発活動、および清掃活動等に取り組む。 イ. パラスポーツやニュースポーツを授業やクラブに取り入れ、大会等への参加などにも取り組む。</p>	<p>(1) ア. 昨年に引き続き、小・中学部教員の三分の一が事業所見学を実施する。 イ. 小中高の学部間連携を意識した、将来につながる実践的(作業学習や販売学習など)な学習を試行する。</p> <p>(2) ア. 交流から「共同学習」へ一歩進めるための検討を開始し、年度内に方向性を定める。 イ. より充実した交流活動を具体化するための検討をし、年度内に方向性を示す。</p> <p>(3) ア. 地域に向けた取組を各学部1つ以上企画立案し実施する。 イ. パラスポーツやニュースポーツを新たに授業やクラブなどに2競技以上取り入れ実践する。</p>	<p>(1) ア. 昨年に引き続き、小・中学部教員の約三分の一が事業所見学を実施できた(○) イ. 小中高の学部間連携をめざして、今年度からCSP(キャリアサポートプログラム)を発足し高等部から販売実践に取り組む(○)</p> <p>(2) ア. 首席担当であったものを、学年・担任が主体となるように検討し、今年度一部を担当に担ってもらった。(小2件/14件、中12件/16件)(○) イ. 市施設へのプリンター設置等の活動に向け検討中。また新たな試みとして交流校とのクラブ活動での交流を開始した(○) イ. ボッチャの授業活用だけではなく、校長マネジメント予算で、チャレンジ・ディスプレイ・フープを購入し、授業でも活用できた。(○)</p> <p>(3) ア. 各学部1つ以上の企画立案が出来ず、次年度の課題に・・・(△) イ. ボッチャの授業活用だけではなく、校長マネジメント予算で、チャレンジ・ディスプレイ・フープを購入し、授業でも活用できた。(○)</p>
3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り	<p>(1) 中河内支援教育研究会での役割分担や活動を活性化させ、地域の支援教育力の向上に寄与する。</p> <p>(2) ヒヤリハットの共有、緊急対応体制のさらなる定着を図り、教員間の情報の共有と連携のもと、個々の教職員が常に児童生徒の安全・安心をしっかりと守る体制を構築する。</p> <p>(3) 校務分掌や業務分担の見直し等で、業務の効率化を図り、児童生徒への直接的なかわりの時間を増やす。</p> <p>(4) 教職員が健康にそれぞれの職務を遂行し、児童生徒・教職員ともに快適な職場の環境を構築する。また、会議等の効率化について検討する。</p>	<p>(1) ア. 昨年以上に積極的に研究会に参加し、地域の仕組みの中で、運営や活動に携わる。 イ. 地域の教職員をも対象とした研修や来校相談をさらに充実させる。</p> <p>(2) ア. 新たなヒヤリハットの共有のシステムを構築する。 イ. 実証型避難訓練のさらなる継続実施と訓練の見学を含む保護者と連携した取組を検討する。</p> <p>(3) 今年度より、生活安全部を2つの分掌に分けて運営し、年度中に総括し改善する。また、次年度に向けて分掌や委員会の整理を検討していく。</p> <p>(4) ア. 定時退庁日の奨励や長期休業中の時間外勤務の縮減に昨年以上に取り組む。 イ. 会議の効率化や削減に取り組む。</p>	<p>(1) ア. 中河内支援教育研究会での定期研究会への出席及び情報提供を行う。 イ. 来校相談の環境を整え、年15回以上実施する。</p> <p>(2) ア. 新たなヒヤリハットの仕組みを2学期までに試行実施する。 イ. 保護者向け学校自己診断の「災害に備えた取組み・・・」の肯定的評価の昨年度【H30 80%】よりアップさせる。</p> <p>(3) 夏季休業中に、次年度の体制について検討会議を実施。教職員向け学校自己診断の「分掌、学部それぞれの連携が図られている」項目の肯定的評価を5%増【H30 72%】</p> <p>(4) ア. 週1回の定時退庁日(午後7時まで)の完全実施 イ. 会議におけるルールを新たに2つ以上実施する。</p>	<p>(1) ア. 中河内支援教育研究会での定期研究会への出席及び情報提供を行えた(○) イ. 来校相談の環境を整え、情報提供を行った結果、年25回以上実施できた(◎)</p> <p>(2) ア. 情報共有が素早くできる、新たなヒヤリハットの仕組みを1学期半ばから試行実施。少しずつ定着しつつある。(○) イ. 新たに、訓練の保護者見学とアンケートを実施。保護者向け学校自己診断の「災害に備えた取組み・・・」の肯定的評価の昨年度【H30 80%】より7%アップできた(◎)</p> <p>(3) 7分掌の総括については出来たが、今年度中に6分掌への再編は出来なかった。次年度への課題として、行事部の廃止を検討し方向性を打ち出したい。評価は前年度と同じであった(△)</p> <p>(4) ア. 週1回は安衛委の連携し実施。当該日はほぼ時間外が0で定着(○) イ. 会議時間を16時開始に改め、運営会議や職員会議の資料は2日前配布のルールを決め、各持ち時間も設定し実施。(○)</p>